

木材需給動向について (四国地区)

令和3年6月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（四国地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・四国地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

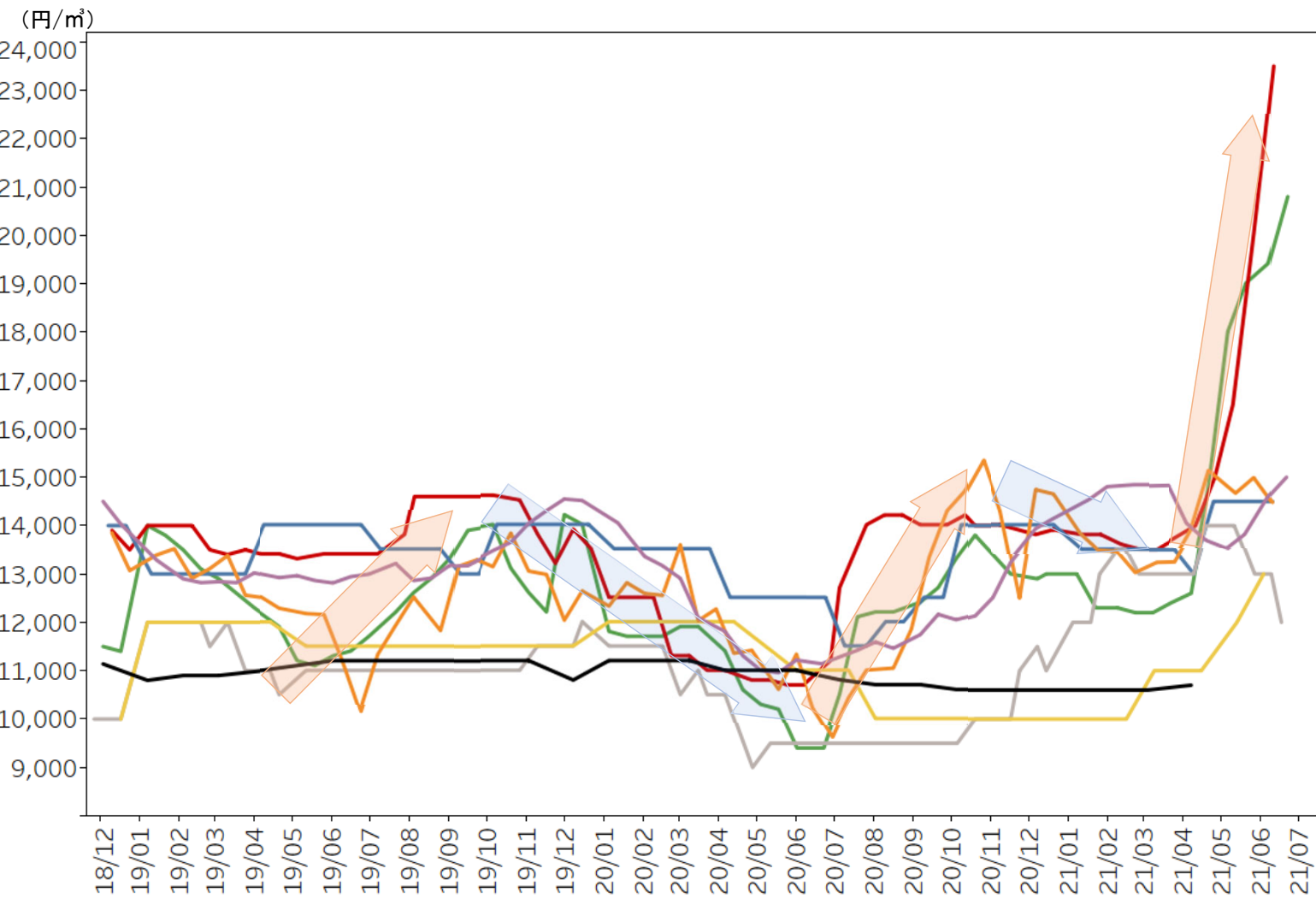
(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 四国地区の住宅着工戸数

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換し、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く、九州地域では価格が高騰している。
- 令和3年6月のスギ原木価格は、前年同期比16%から121%増となっている。



都道府県	R3年 6月※	前年 同期	前年 同期比
北海道	10,700	11,000	-3%
秋田県	15,000	11,130	35%
栃木県	14,480	10,210	42%
長野県	13,000	11,000	18%
岡山県	12,000	9,500	26%
高知県	14,500	12,500	16%
熊本県	23,500	10,700	120%
宮崎県	20,800	9,400	121%

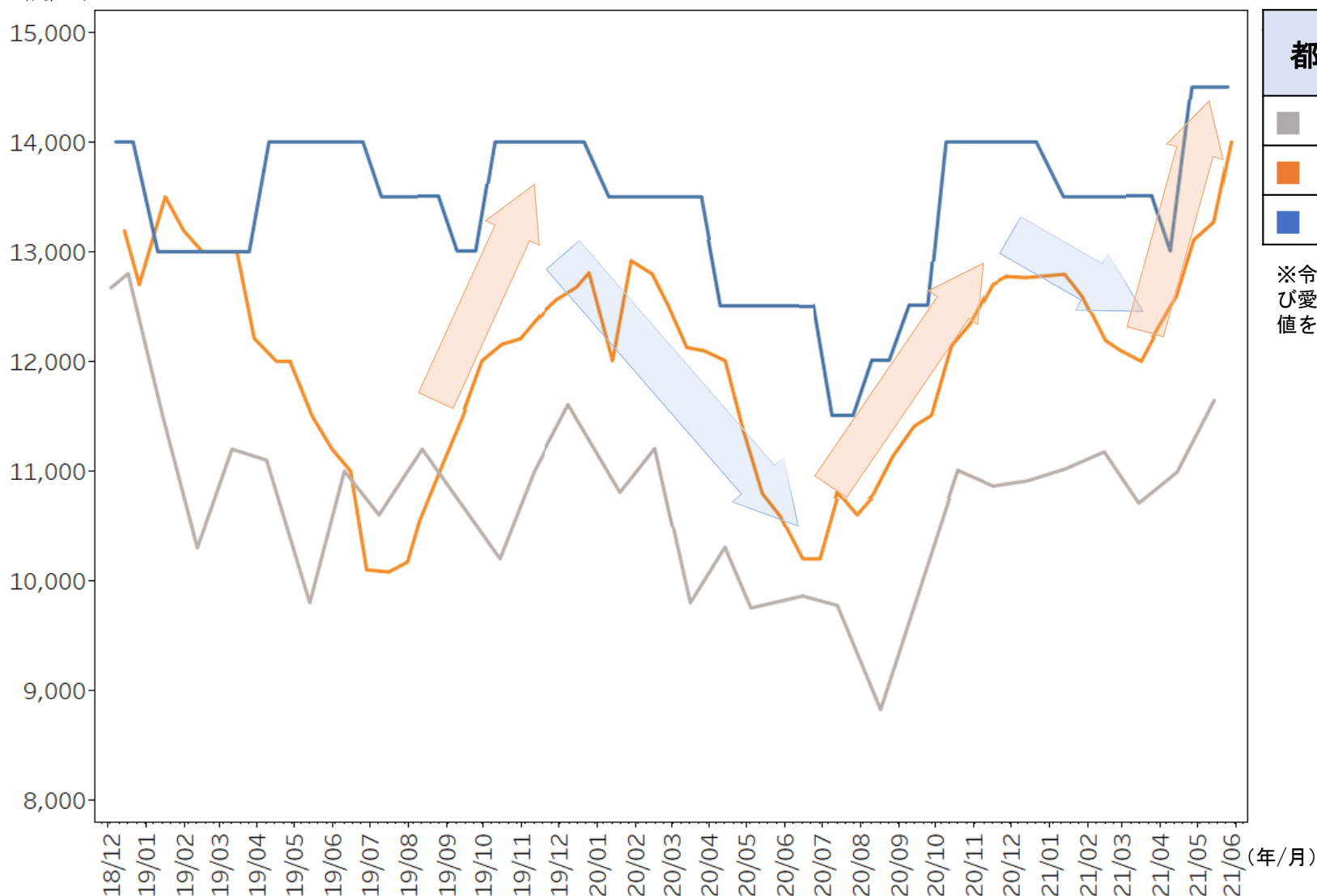
※令和3年6月における直近の値。ただし、北海道及び長野県については、当該月の値がないため、4月及び5月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（四国地区） 径24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換し、例年程度まで回復。
- 令和3年に入ってから、若干原木価格が下落したものの、全国の傾向と同様、価格の上昇が見られる。
- 令和3年6月のスギ原木価格は、対前年比16%から32%増となっている。

(円/㎡)



都道府県	R3年 6月※	前年 同期	前年 同期比
徳島県	11,644	9,752	19%
愛媛県	14,000	10,590	32%
高知県	14,500	12,500	16%

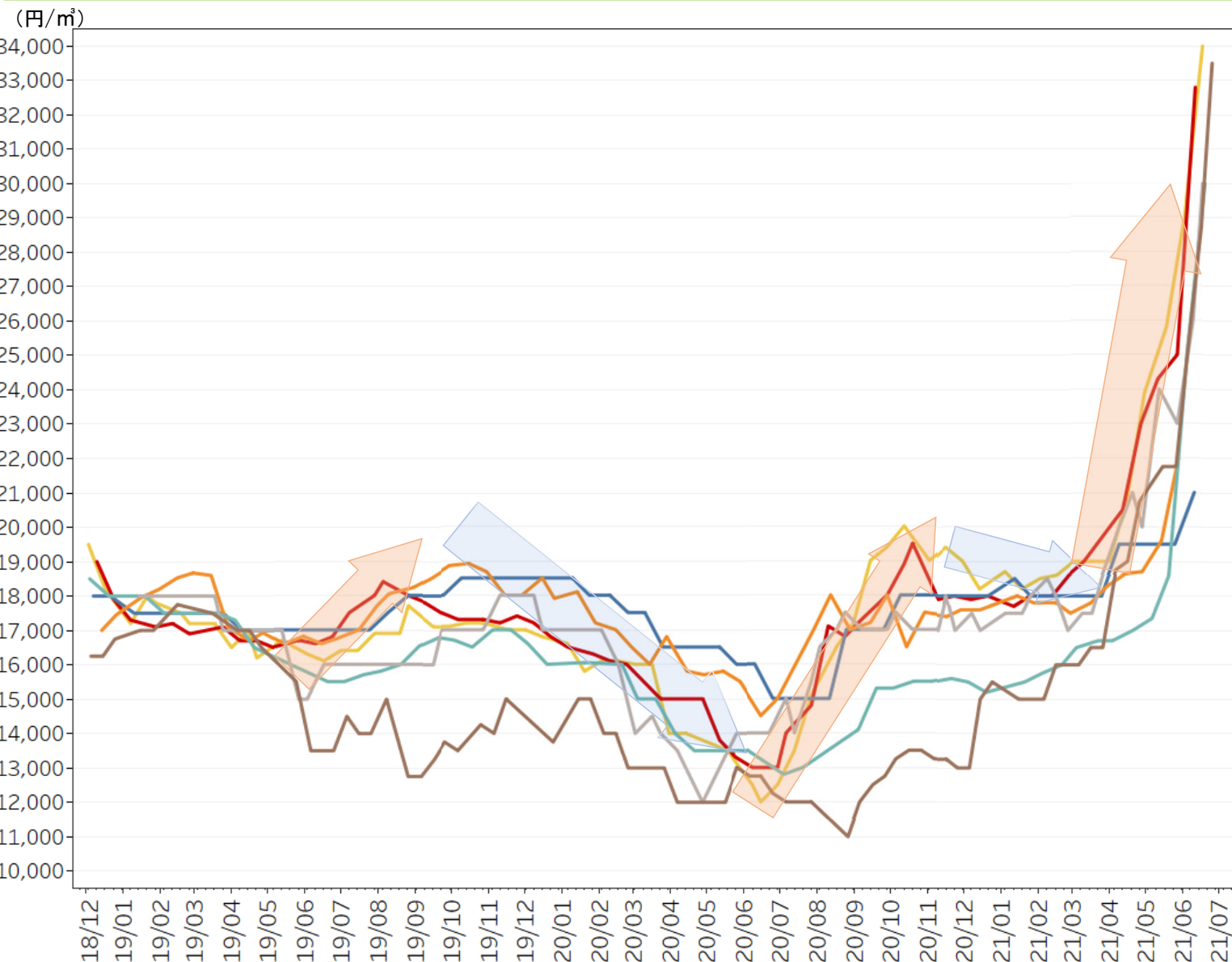
※令和3年6月における直近の値。ただし、徳島県及び愛媛県については、当該月の値がないため、5月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、令和2年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、令和3年に入っからは、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、全ての地域で上昇し地域によっては高騰している。
- ・令和3年6月のヒノキ原木価格は、前年同期比31%から183%増となっている。



都道府県	R3年 6月※	前年 同期	前年 同期比
兵庫県	33,500	12,250	174%
岡山県	30,000	14,000	114%
広島県	30,000	13,500	122%
愛媛県	22,000	15,500	42%
高知県	21,000	16,000	31%
熊本県	32,800	13,000	152%
大分県	34,000	12,000	183%

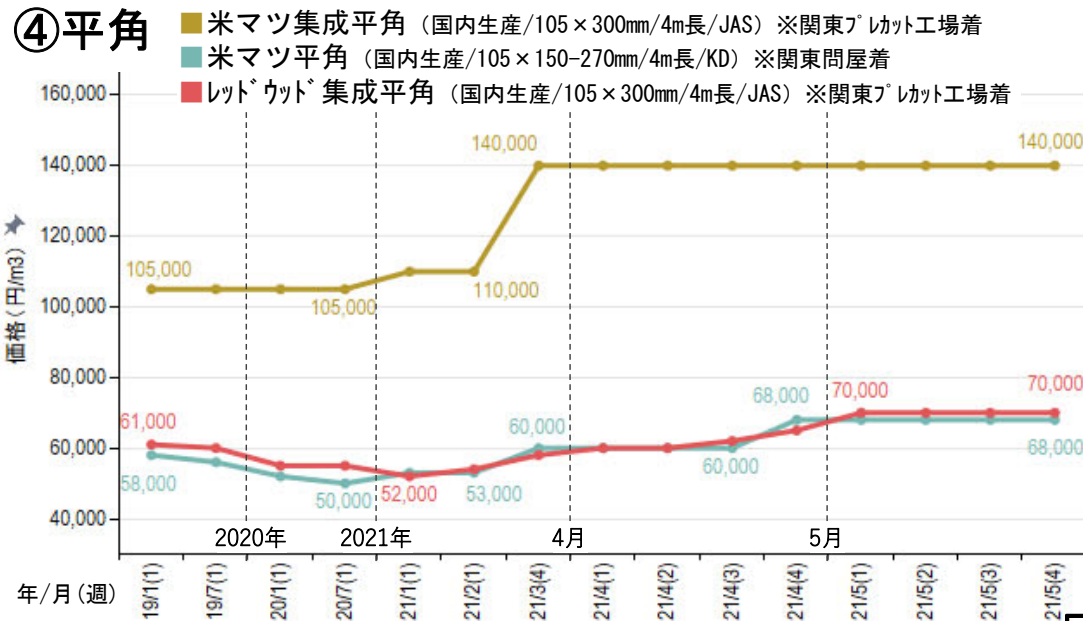
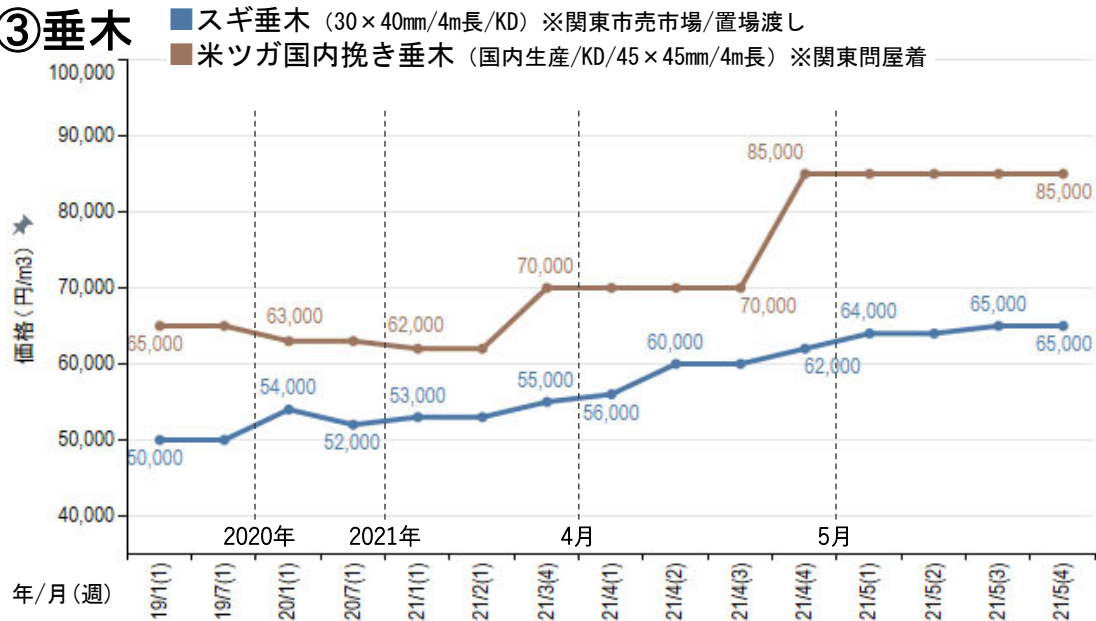
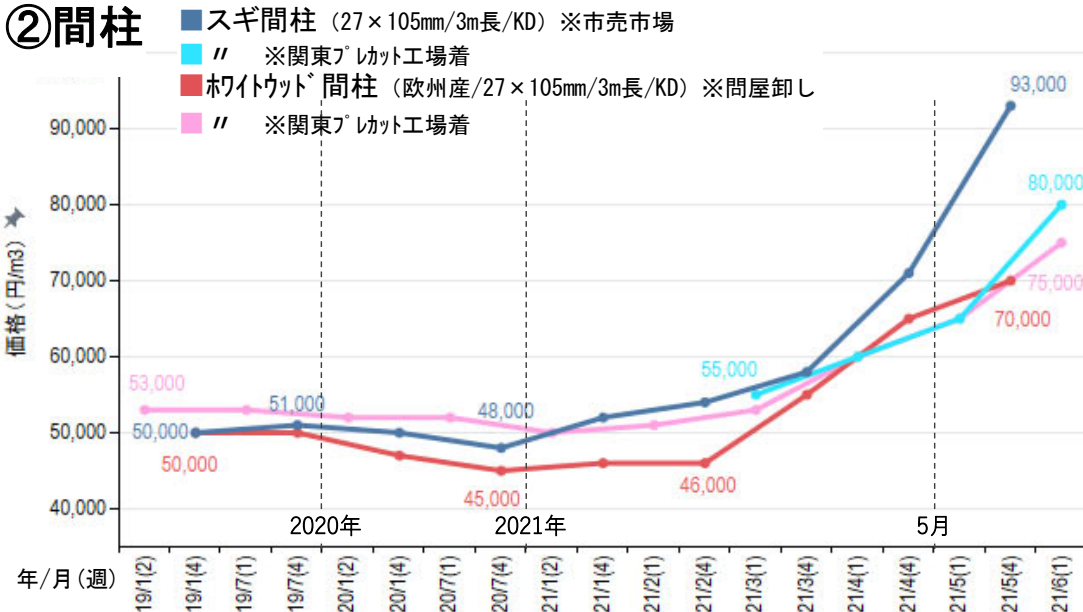
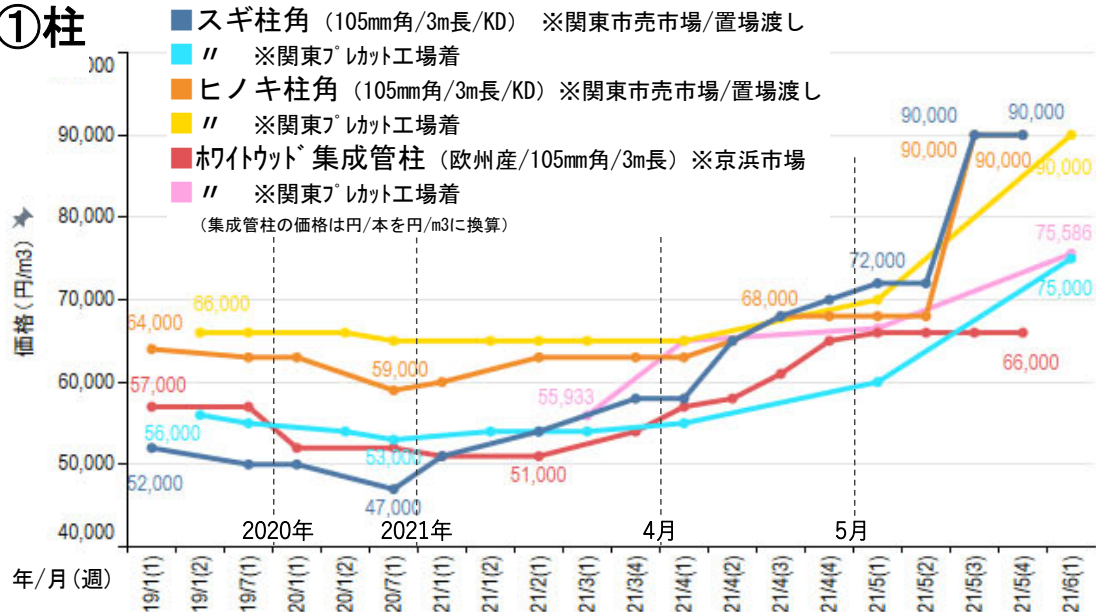
※令和3年6月における直近の値。ただし、愛媛県については、当該月の値がないため、5月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

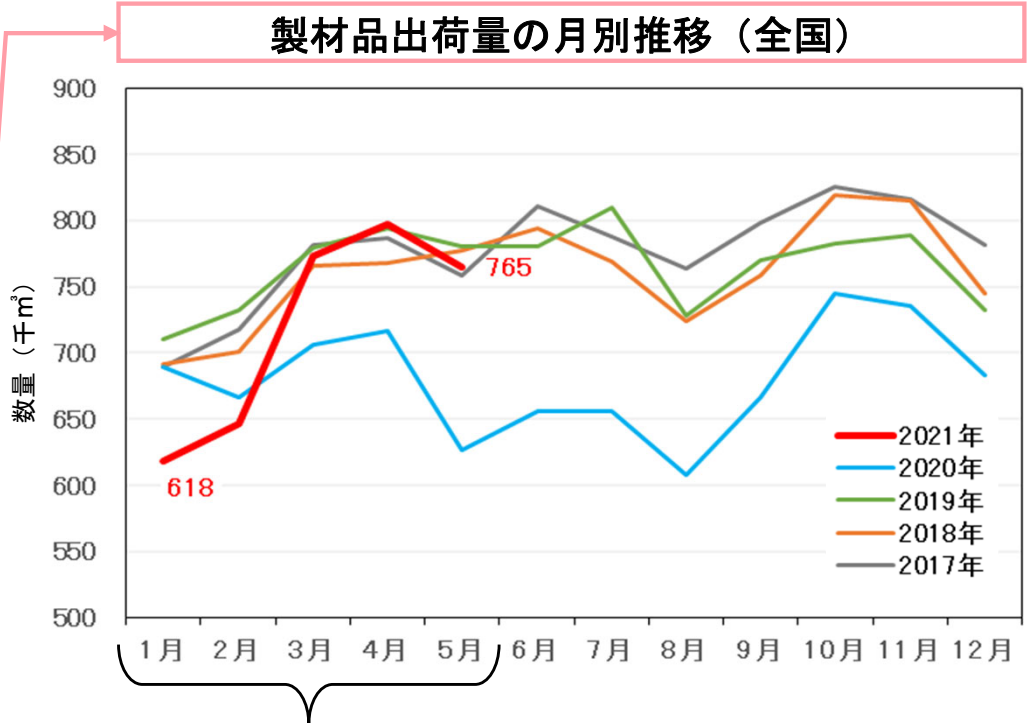
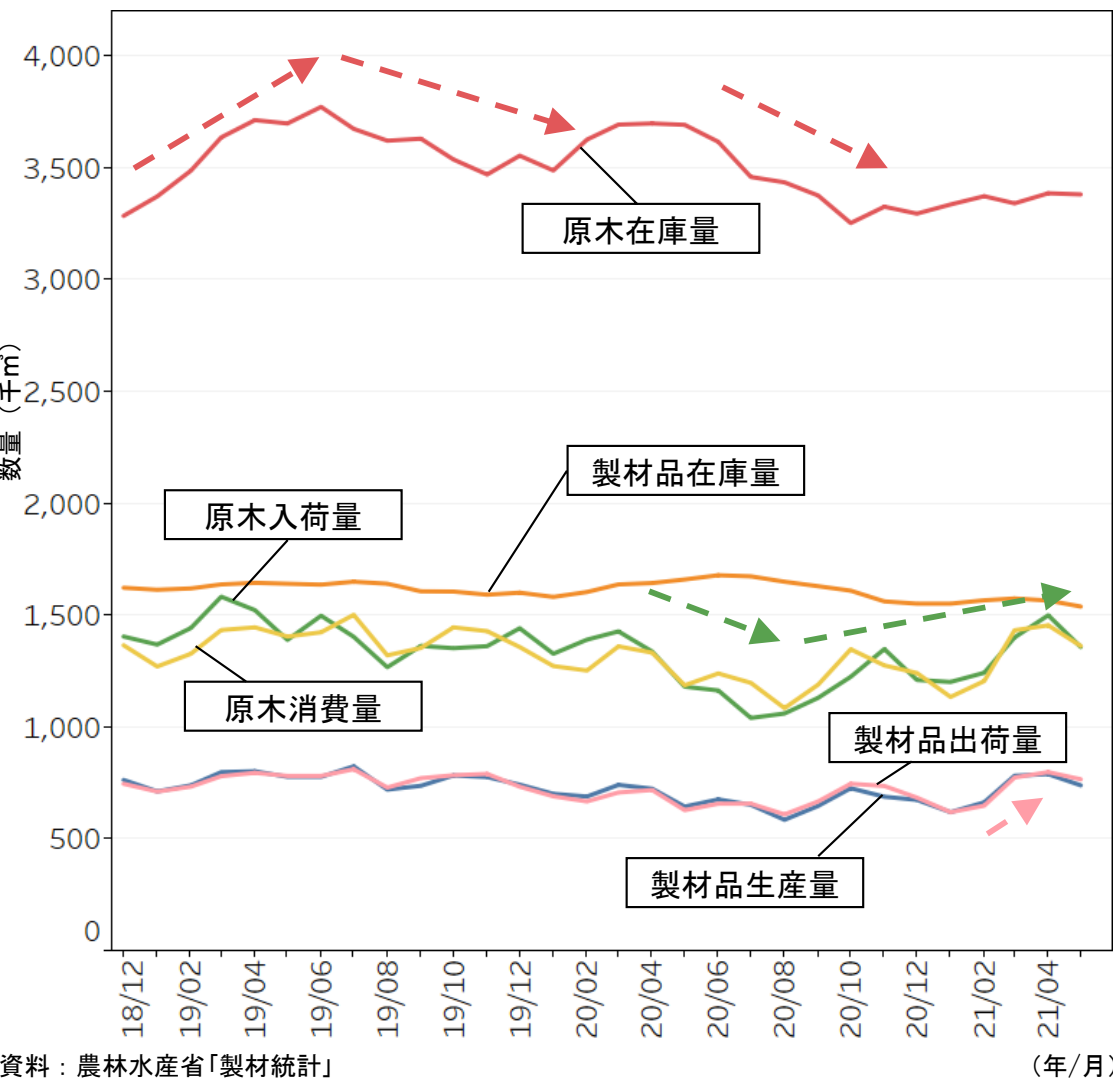


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- ・製材品の生産量及び出荷量は、令和3年1月から4月は増加傾向。前年を除き、例年1～5月期は増加がみられるが、令和3年同期の出荷量は24%増と近年にない高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- ・また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- ・原木の入荷量及び消費量は、令和3年1月から増加傾向だが5月は減少に転じた。

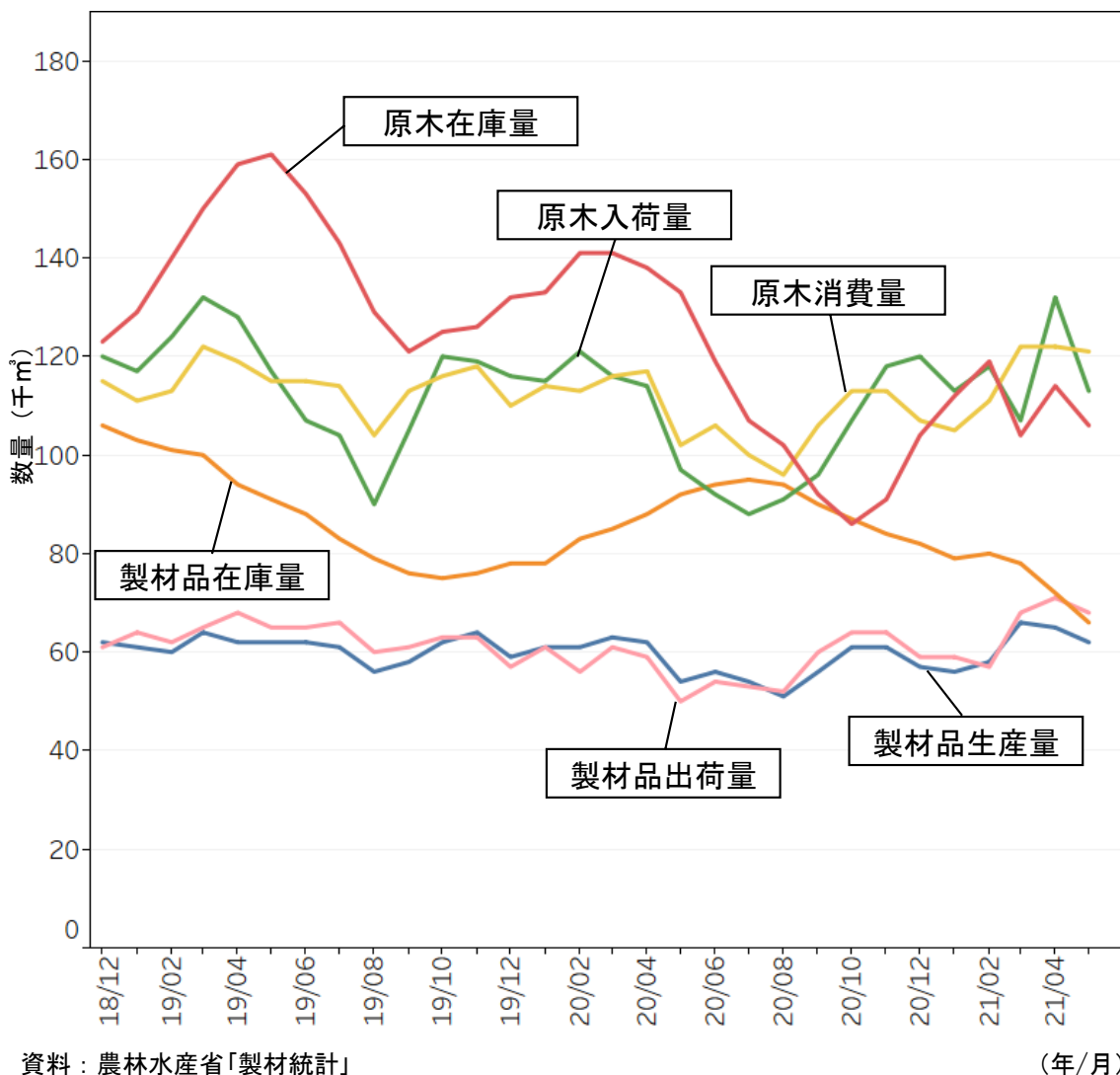


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～5月出荷量 伸び率	10%	12%	10%	-9%	24%
1～5月出荷量 合計 (千m3)	3,733	3,704	3,795	3,405	3,600

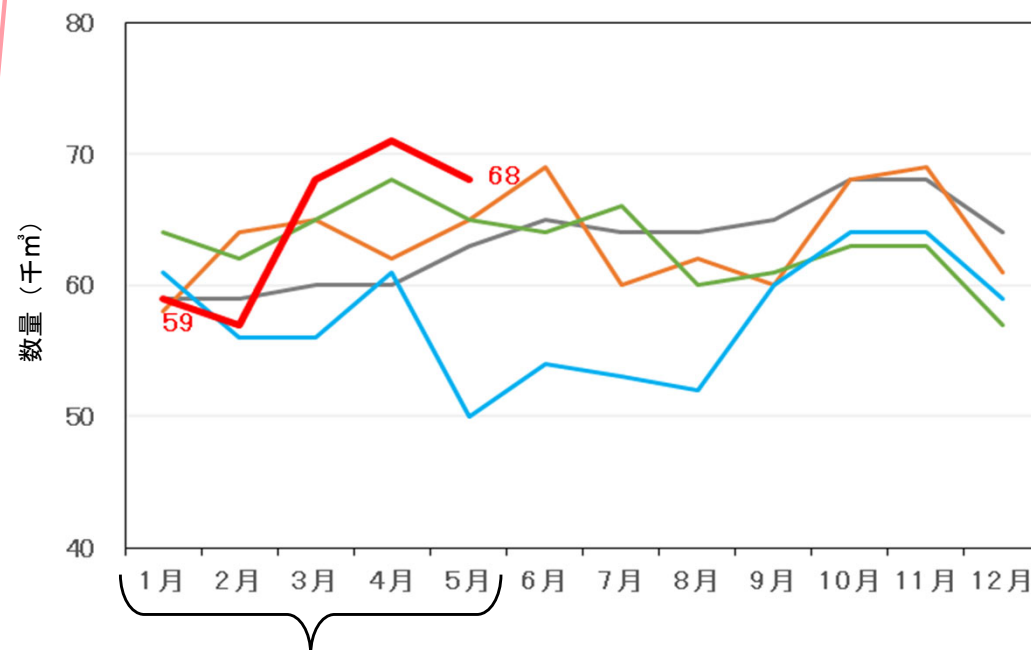
資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材（四国地区）

- ・ 四国地区の製材品の生産量及び出荷量については、令和3年2月から4月は増加傾向。前年を除き、例年1～5月期は増加がみられるが、令和3年同期の出荷量は15%増と近年でも高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- ・ また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- ・ 原木の入荷量及び消費量は、令和3年3月から増加傾向だが、5月には減少に転じた。



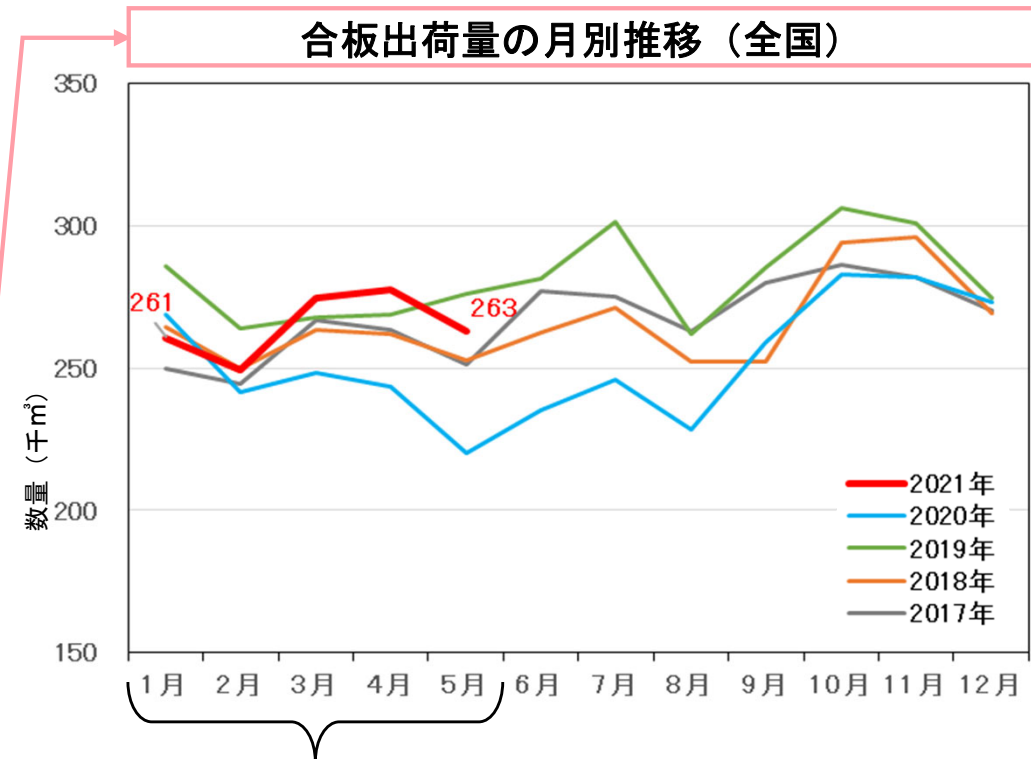
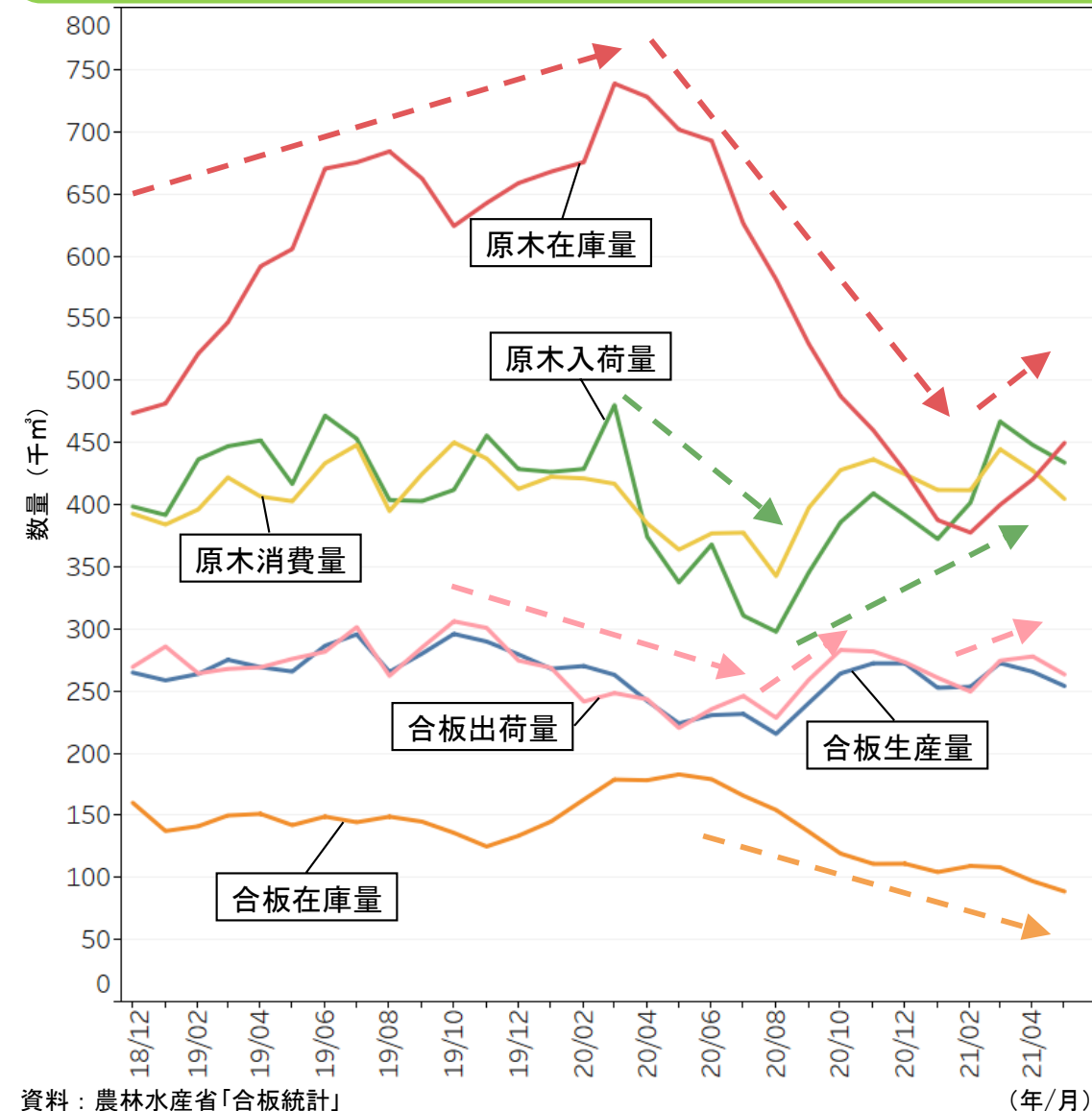
製材品出荷量の月別推移（四国地区）



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～5月出荷量 伸び率	7%	12%	2%	-18%	15%
1～5月出荷量 合計 (千m³)	301	314	324	284	323

(2) 合板（全国）

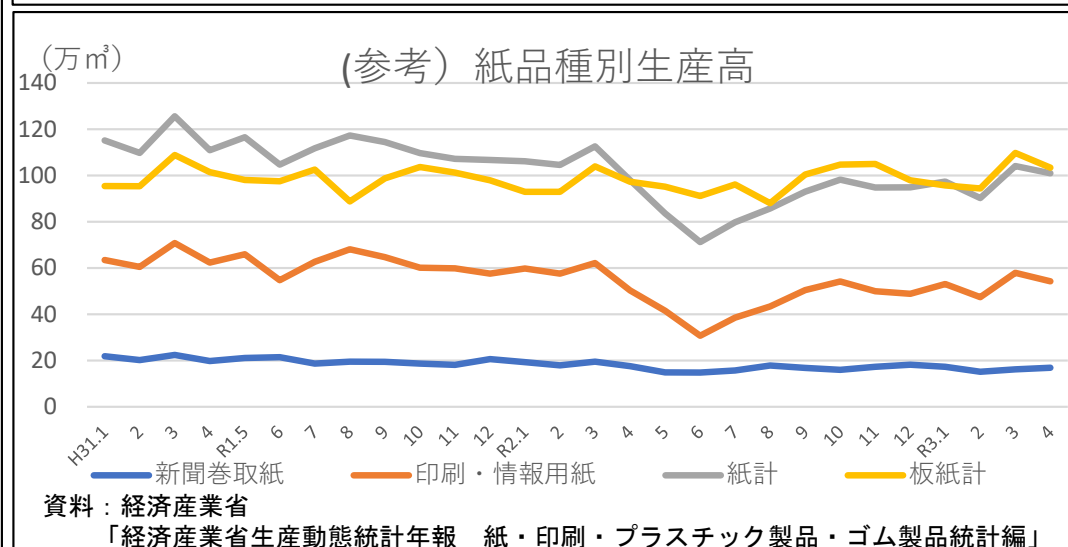
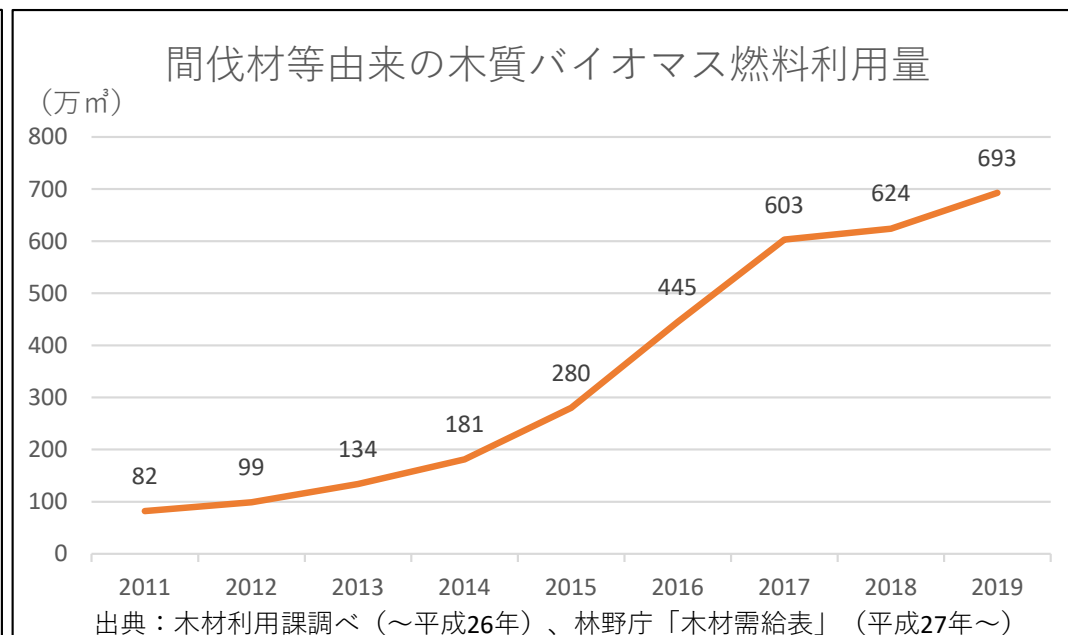
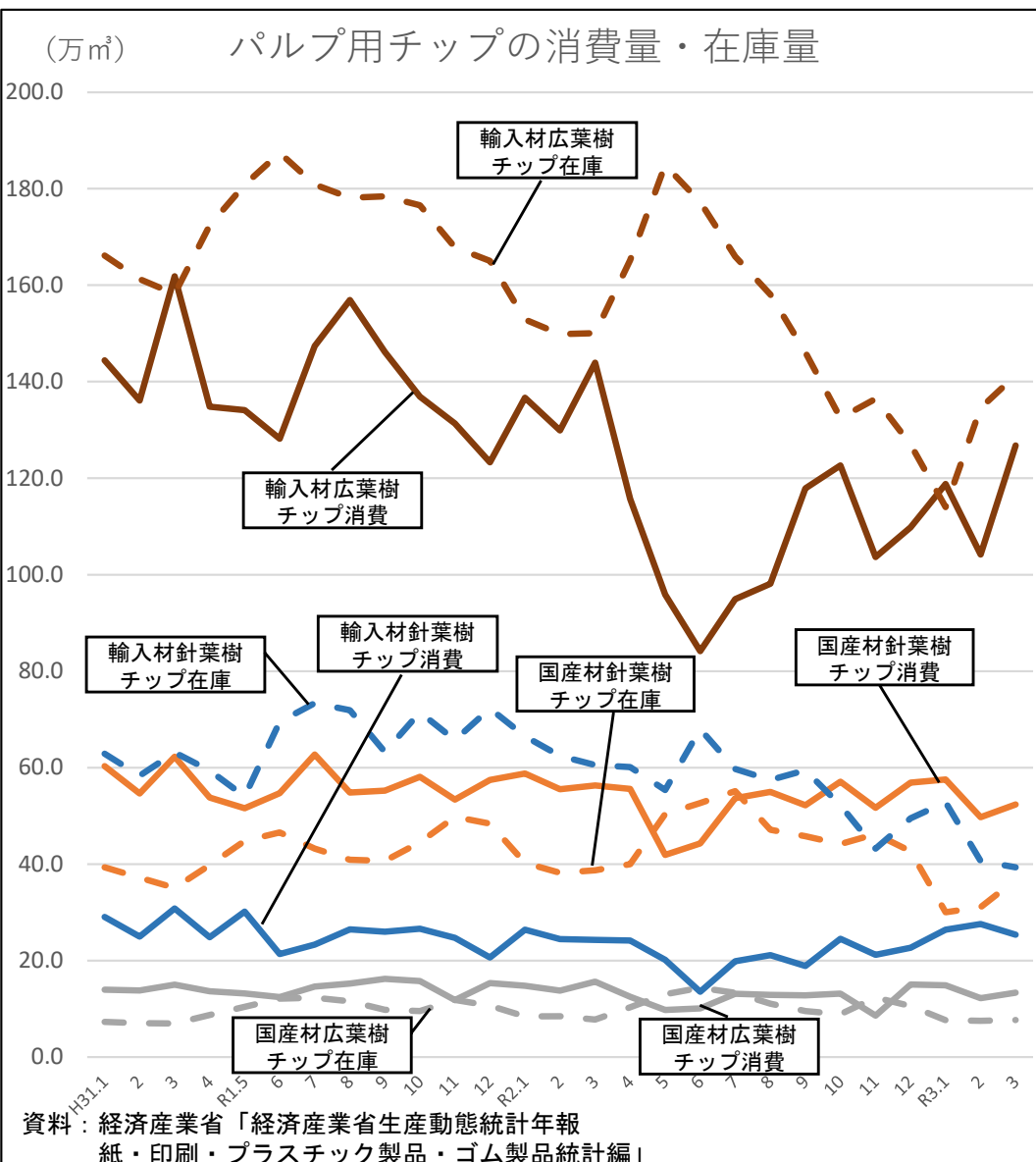
- 合板の生産量及び出荷量は、令和3年2月から4月は増加傾向。1～5月期で見ると直近3年間は減少傾向にあったが、令和3年同期の出荷量は1%増とコロナ禍以前の2017年と同等の伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍以前と比較しても高い水準まで回復している。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年2月から増加傾向で、4月以降は減少するも、コロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。原木の在庫量は、令和2年4月以降急激に減少していたが、令和3年3月から増加に転じた。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～5月出荷量 伸び率	1%	-4%	-3%	-18%	1%
1～5月出荷量 合計(千m³)	1,276	1,292	1,362	1,222	1,325

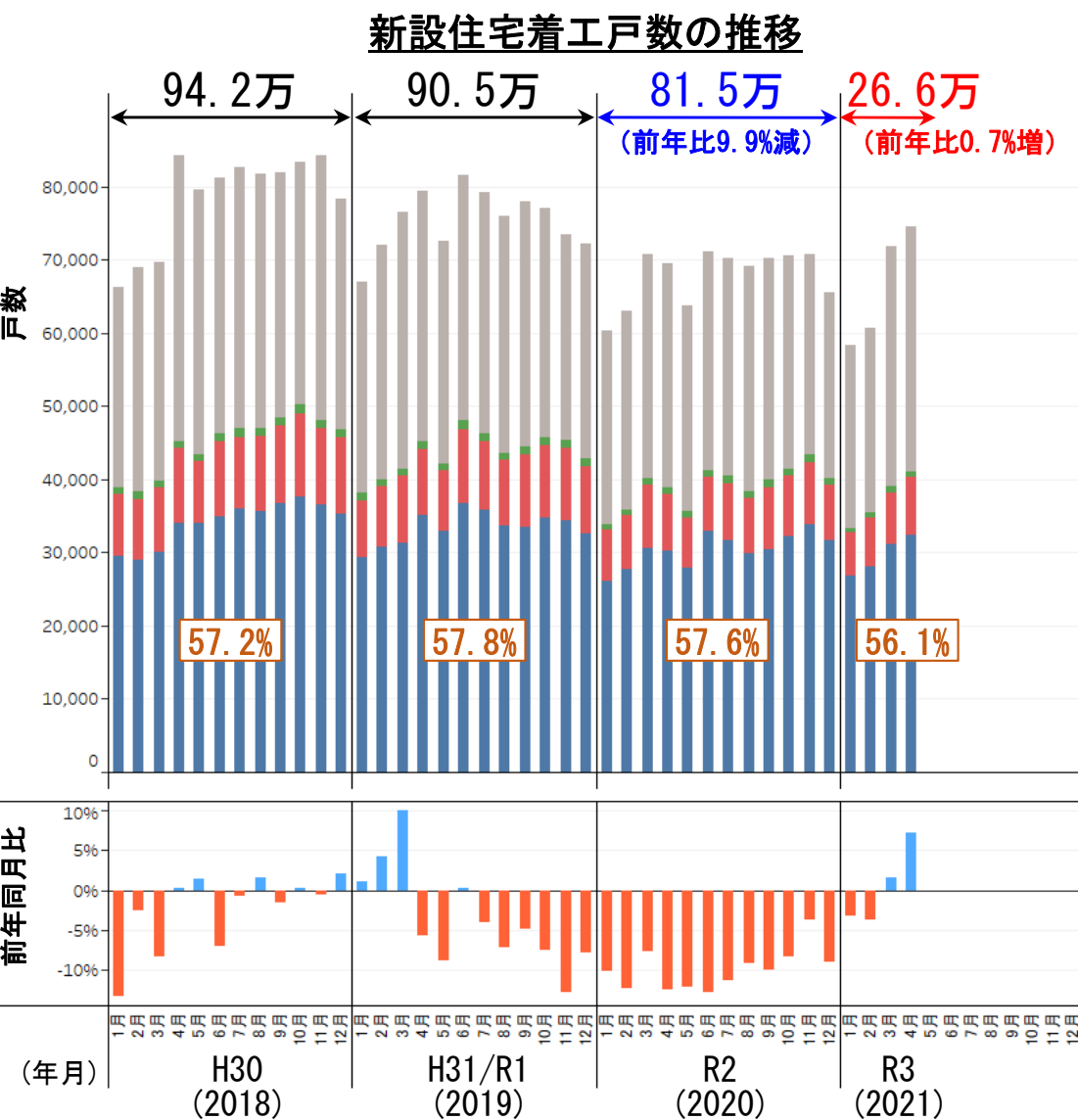
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。

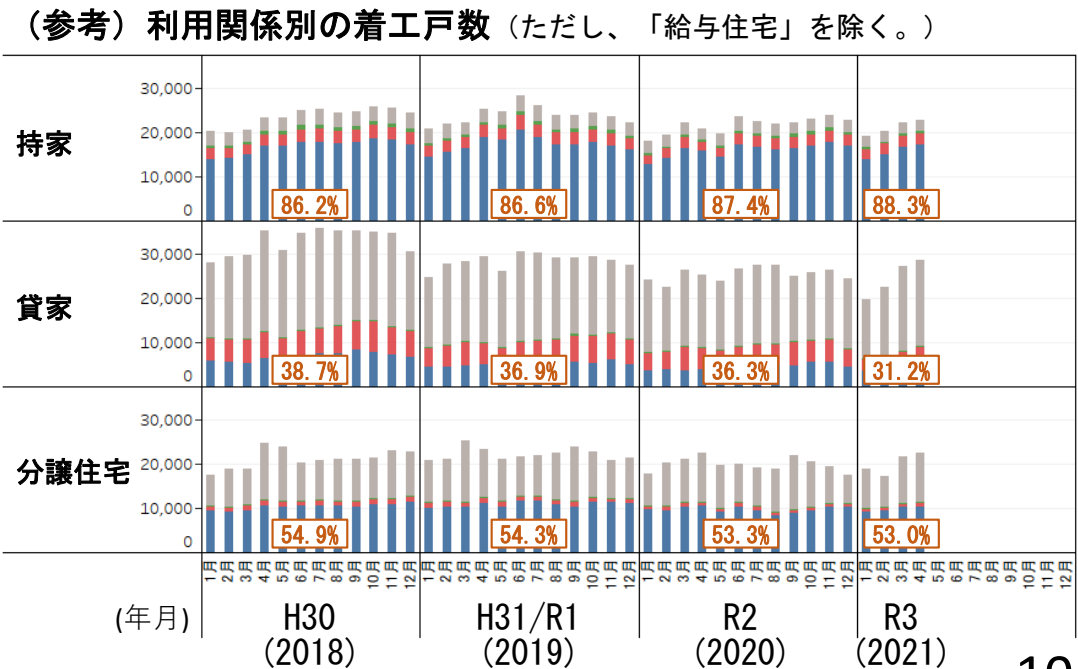


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (平成30年1月～令和3年4月)

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～4月の新設住宅着工戸数は、26.6万戸（前年比0.7%増）、このうち木造住宅は14.9万戸（同0.2%増）。
- 令和2年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※平成21年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）



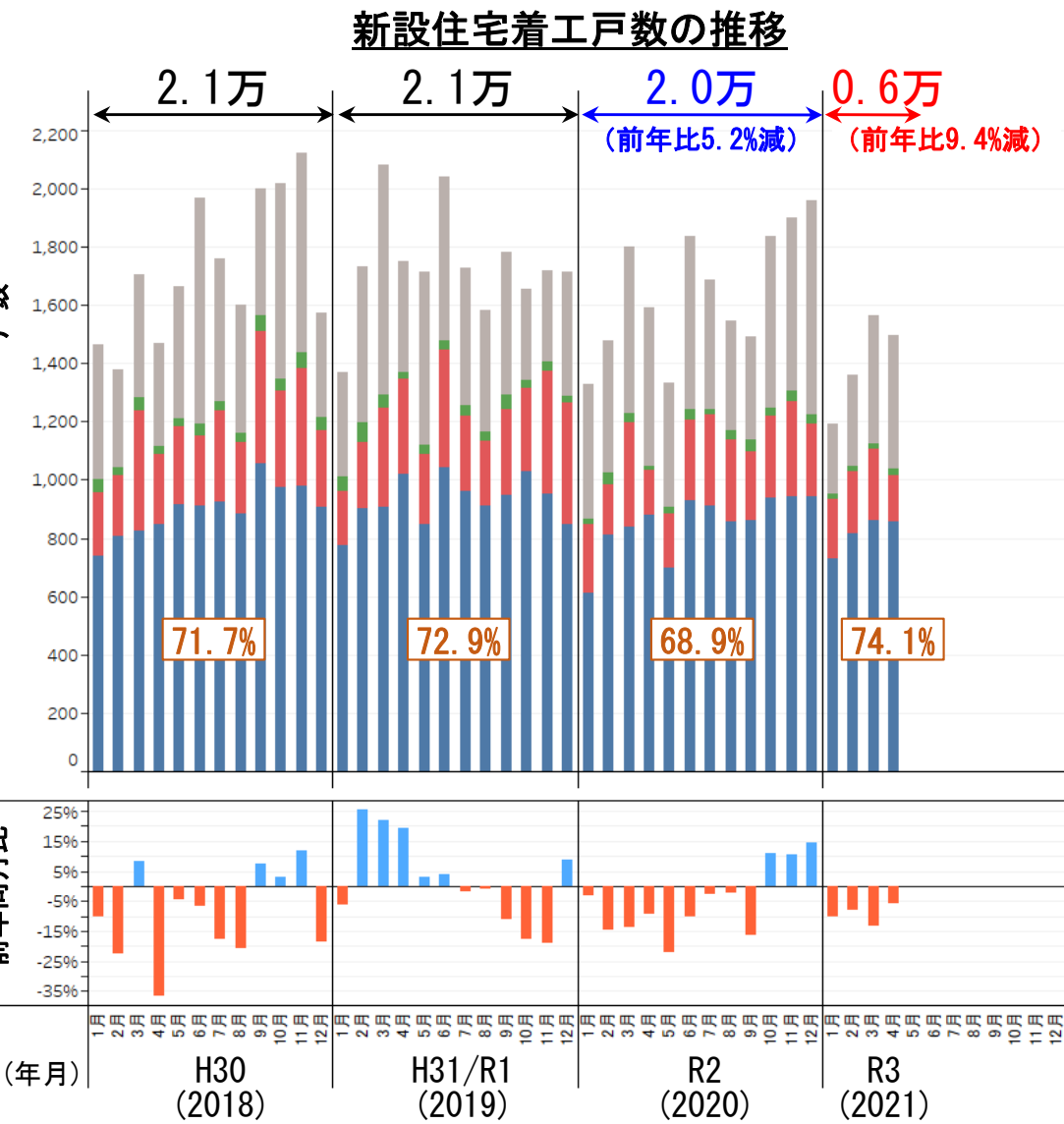
構造別の着工戸数	R 3 年 1～4 月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	265,520	263,743	0.7%	295,000	-10.0%
■ 非木造	116,608	115,082	1.3%	130,272	-10.5%
■ 木造	148,912	148,661	0.2%	164,728	-9.6%
■ 木造プレハブ	2,943	3,234	-9.0%	3,756	-21.6%
■ 2×4	27,340	30,683	-10.9%	34,280	-20.2%
■ 在来軸組	118,629	114,744	3.4%	126,692	-6.4%
□ 木造率	56.1%	56.4%		55.8%	



資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 四国地区の住宅着工戸数（平成30年1月～令和3年4月）

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、2.0万戸（前年比5.2%減）、このうち木造住宅は1.4万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～4月の新設住宅着工戸数は、0.6万戸（前年比9.4%減）、このうち木造住宅は0.4万戸（同0.2%減）。



構造別の着工戸数	R3年 1～4月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	5,613	6,196	-9.4%	6,933	-19.0%
■非木造	1,451	2,027	-28.4%	2,068	-29.8%
木造	4,162	4,169	-0.2%	4,865	-14.5%
■木造プレハブ	75	104	-27.9%	181	-58.6%
■2×4	818	921	-11.2%	1,079	-24.2%
■在来軸組	3,269	3,144	4.0%	3,605	-9.3%
□木造率	74.1%	67.3%		70.2%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

